

〔研究ノート〕

卓上スポーツ・徳川式「紙相撲」の実践と普及 Practice and Promotion of Table Sport “Tokugawa-style Paper Sumo”

朝 西 知 徳
ASANISHI Tomonori

I はじめに

2020（令和2）年4月7日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、1回目の緊急事態宣言が全国に発令された。本学の教職員は自宅待機を求められ、授業はリモート形式となり、筆者が「野球部活動を通じた高大連携の試み」として指導を始めた併設校（羽衣学園高等学校）の野球部の活動は116日間も休止された。世界的にスポーツ活動の自粛が続き、スポーツに関わる人々はストレスを抱えるようになった。

近年、卓上スポーツ「eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）」の人気が高まっているが、eスポーツから競技スポーツに似た充足感が得られることは事実としてあるようだ。新型コロナウイルス感染症が広がる現代、人と人が接触することのないeスポーツの人気はさらに高まっていくと予想される。そんな折、筆者はeスポーツにヒントを得て、同じく卓上スポーツ「紙相撲」についての活動を再開した。本稿では、「紙相撲」の実践が、スポーツ選手の心理面にどのような影響を与えるのかを考察する。

II 紙相撲の歴史

江戸時代に庶民の娯楽として親しまれていた相撲の人気は、江戸から全国各地に広まったときに相撲の玩具が作られたという。紙相撲の始まりも同時期だという説が有力である。十返舎一九が『教訓相撲取草』（1804年頃）の中で、子供たちが紙の力士に息を吹きかけて相撲を取らせる様子を描いていることは、その手がかりとなるであろう。その後、明治・大正・昭和の時代を巡り、紙相撲は子供たちの遊びの一つとして定着していった¹⁾。

III 大相撲と紙相撲の関係

1976（昭和51）年から1977（昭和52）年までの大相撲（日本相撲協会）は、第54代横綱の輪島大士（花籠部屋）と第55代横綱の北の湖敏満（三保ヶ関部屋）が、千秋楽の結びで優勝を争うという大一番を繰り返し、「輪湖時代」と称されて大いに人気を博した。筆者も輪湖時代に魅せられた小学生の一人である。

1975（昭和50）年に発行された切りぬく本『子供の科学別冊おたのしみ号「トントン紙相撲」』（以下、『トントン紙相撲』）の裏表紙には、当時の横綱であった輪島（左）と北の湖（右）を

連想させる力士が掲載されている²⁾。大相撲の人気と紙相撲の人气が連動していたことが推察できる一枚である（写真1）。

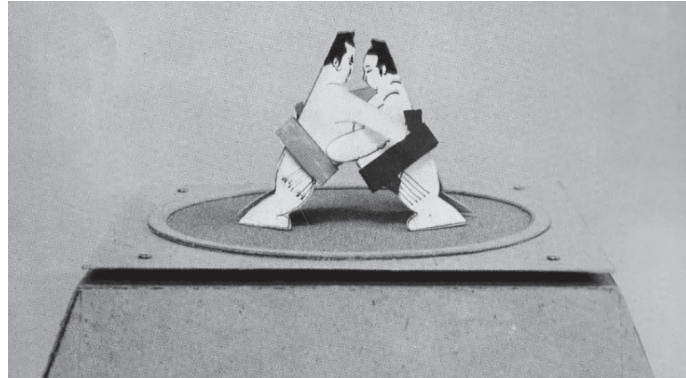


写真1 『トントン紙相撲』の裏表紙の力士

1 昭和の紙相撲ブーム

1970年代、日本紙相撲協会（1954年に設立の愛好家団体）の初代理事長であった徳川義幸氏の考案する紙相撲（以下、徳川式紙相撲）の活動の様子が、テレビ・新聞・雑誌などで報じられると、紙相撲に夢中になる子供が多く現れるようになった^{1) 2)}（写真2）。

1975（昭和50）年に徳川式紙相撲を紹介する切りぬく本『トントン紙相撲』が発行されれば、たちまち増刷されるという人気ぶりであった。

筆者が小学五年生のとき（1976年）、学校行事の一つであった「工場見学」では、「三菱ふそう」を訪れた。見学の記念として、会社案内の資料に加えて、切り抜いて遊ぶ紙相撲の力士（6体）が配られた。今よりも娯楽の少なかった当時、いかに紙相撲という遊びが、子供たちの日常に溶け込んでいたのかが分かる出来事でもある。



写真2 徳川式紙相撲の本場所の様子（『トントン紙相撲』より）

2 徳川式紙相撲の特徴

徳川式紙相撲（日本紙相撲協会）は、本場所を開催する国技館があり、部屋制度があり、番付があり、このように、「いかに大相撲に近づけるか」を目指して運営されている^{1) 2) 3)}。

力士の形態に規格を定め、公正な「たたき手」によって力士たちを土俵（一辺14cm、円の直径12cm）と土台（高さ3 cm以上）で躍動させる。大相撲の力士の動きに近づけるために左右の腕の高さを変え（右腕が上、左腕が下）、すべての取り組みは、左四つの体勢から「ハッキヨイ（發揮良い）」の聲が始まる。

なお、土台の上（土俵と土台の間）には、一辺を約8 mmの立方体に切った消しゴムが4つ、等間隔（約5 cm）で接着されており、土俵と土台の間に適度な隙間を与えている。「たたき手」の左右の人差し指と中指の動きによって、土俵に緩やかな振動を与え、紙相撲の動きを大相撲に近づけようとする工夫がなされている。

徳川式紙相撲の最大の魅力は、力士たちがまるで生きているかのような動きをする点にある（図1）。

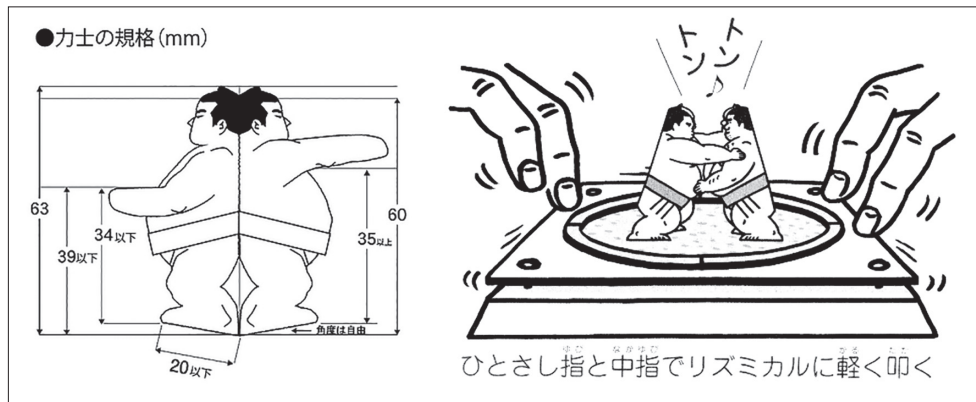


図1 徳川式紙相撲について（「日本紙相撲協会ホームページ、復刻版『トントン紙相撲』」より）

前述したが、1970年代には徳川義幸氏が開催する本場所をNHKテレビが生中継するほどの「紙相撲ブーム」が巻き起こった。50年の時を経た現在でも、日本紙相撲協会は、徳川式紙相撲の研究と普及に努めている³⁾。

1975（昭和50）年に発行の『トントン紙相撲』は、2019（令和元）年には復刻版が発行された（写真3）。



写真3 『トントン紙相撲』（1975）と復刻版『トントン紙相撲』（2019）

V 朝西紙相撲連盟としての活動

1 昭和の熱中

小学五年生の三学期（1977年）、クラスメイトが自宅で『トントン紙相撲』で遊んでいると教えてくれた。訊くと、工場見学で贈られた力士とは違い、大相撲に近い本格的な動きができるという。さっそく筆者も『トントン紙相撲』を手に入れると、力士たちのまるで生きているかのような多彩な技の応酬に魅せられ、徳川式紙相撲に熱中するようになっていった。

1.1 本場所の開催

1977（昭和52）年3月に初めて本場所を開催した。「第1回紙相撲本場所」「第2回紙相撲本場所」は、技量審査場所（5日制）のような位置づけであり、実力に見合った正確な番付の編成を主な目的とした。なお、これらの場所の勝敗は、力士の通算成績には含めていない（ただし受賞回数は含める）。

「第3回紙相撲本場所」から「第19回紙相撲旭川場所」までは、日本紙相撲協会に倣って11日制として開催。昭和の時代では最後の本場所となった1988（昭和63）年2月に開催の「第20回紙相撲旭川場所」からは、大相撲と同様に15日制と改めた。

1.2 部屋制度の導入

「第17回紙相撲本場所」から部屋制度を取り入れた。それまでは『トントン紙相撲』から切り抜いた40力士を中心に本場所を開催していたが、高校時代に運動部を中心としたクラスメイトが作る力士たちが参戦するようになり、それをきっかけとして、各クラスメイトに親方になってもらい、それぞれの部屋を発足してもらった。なお、『トントン紙相撲』の力士たちも平等な人数に分け、それぞれ部屋に所属させた。

1.3 国技館の建設

日本紙相撲協会の国技館に倣って、1984（昭和59）年2月、神奈川県川崎市宮前区土橋に「宮前国技館」を開館した。「宮前国技館」の大きさは、縦・横・高さがそれぞれ60cm。その後、1987（昭和62）年11月、北海道旭川市永山（平和荘）に移転した（写真4）。

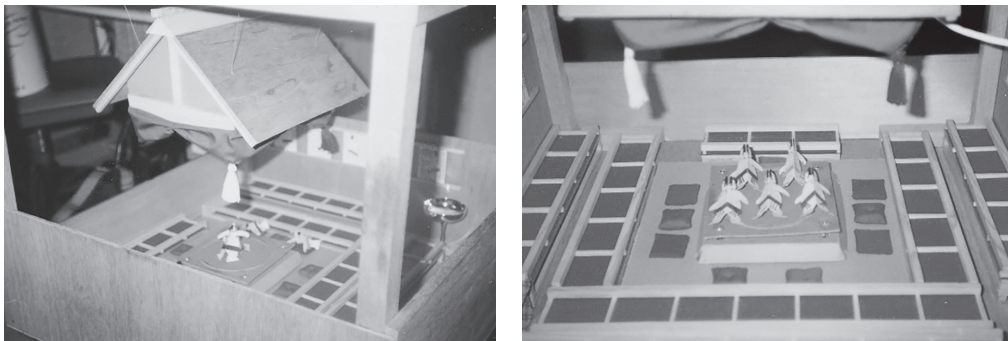


写真4 宮前国技館の様子（1984）

1.4 連盟の発足

1988（昭和63）年2月、高校・大学時代の同級生ら（計15名）とともに「朝西紙相撲連盟」を発足した⁴⁾。日本紙相撲協会とは異なる独自の小さな愛好家団体であるが、日本紙相撲協会と同様に徳川式紙相撲の研究および普及を活動の目的とした（写真5）。



写真5 朝西紙相撲連盟の発足を記念して作ったゴム印

2 平成の休眠

1988（昭和63）年3月に大学を卒業した筆者は、高校および大学の教員として、生徒・学生指導や教科指導に加えてクラブ指導（野球）を続けたため、平成の時代（約30年間）は、多忙により本場所を開催することはできなかった。その間、「宮前国技館」は老朽化が進み、2001（平成13）年1月に閉館し、17年間の務めを終えた。一方で、力士たちは嚴重に保管し、次の本場所まで待機させた。

3 令和の復活

2020（令和2）年4月7日、新型コロナウイルス感染症の拡大により、1回目の緊急事態宣言が全国に発令され、自宅で過ごす時間が圧倒的に多くなった。

それを機に朝西紙相撲連盟の活動を再開しようと考え、1988（昭和63）年2月以来、およそ32年ぶりに本場所「第21回紙相撲大阪場所」を開催した。2020（令和2）年には、平成の失った時間を取り戻そうと計10回も本場所を開いた。

ただし、新弟子がほとんどいないという現状と、大相撲が幕内力士の定員を42名と増やしている状況を踏まえて、「第23回紙相撲大阪場所」より、十両制度を廃止。代わりに幕内力士を大相撲に倣って42（±2）名に増員し、幕内の取り組みの充実と活動の質を高めることに重きを置いた。

なお、本場所の結果（星取表、令和紙相撲新聞）については、全国各地に散らばる親方衆（力士を作った人々）に郵送した。部屋名については、それぞれの親方が力士の四股名と同様に自分で名づけることにしているが、親方自身の名字とする場合が多い。

「第27回紙相撲大阪場所」では、三役以上（横綱・大関・関脇・小結）の力士が、初めてすべて勝ち越すという、番付と実力が大相撲のように一致する記念すべき場所となった（表1）。

表1 第27回紙相撲大阪場所の星取表

		初日 令和2年10月4日															千秋楽 令和2年10月9日																							
備考	勝 - 負	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	東		西		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	勝 - 負	備考			
優勝	12 - 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	旭日利 旭	横綱	岩石 鋼鉄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6			
	11 - 4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	龍馬伝 水乃神	大関	川越山 吉ヶ岳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8 - 7		
	11 - 4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	春水 浦川	大関																						
	8 - 7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	えりも岬 浦川	関脇	青竜川 石原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11 - 4	
	9 - 6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	江戸/富士 谷津	小结	欽乃山 山家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11 - 4	
	7 - 8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	樽ノ花 沖田	前頭一	切人山 江森	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4 - 11	
	8 - 7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	飛騨嵐 谷津	前頭二	男山 石原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6 - 9	
	5 - 10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	津和ノ川 江森	前頭三	重乃山 鋼鉄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2 - 13	
	6 - 9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	八戒 屋	前頭四	札虎竜 酒井	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10 - 5	
	3 - 12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	愛岩山 鋼鉄	前頭五	酒天童 酒主	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5 - 10	
	6 - 9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	琴乃山 鋼鉄	前頭六	由良の門 結城	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8 - 7	
	7 - 8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	吉野口 高瀬波	前頭七	美保新山 中原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6	
	10 - 5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	若垂竜 一追	前頭八	旭登 旭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6	
	6 - 9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	栃登 谷津	前頭九	五十時雨 谷津	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6 - 9	
	5 - 10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	魂龍 山家	前頭十	鯉太郎 江森	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6	
	5 - 10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	星泉龍 屋	前頭十一	忍流 鷲籠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6	
	6 - 9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	吹の綱 矢吹	前頭十二	三春駒 一追	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4 - 11	
技能賞	11 - 4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	雪一人 黒川	前頭十三	八重ノ海 秋の里	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5 - 10	
	7 - 8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	金白 汽須	前頭十四	荒波 鷲籠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9 - 6	
	7 - 8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	若三双 春日岳	前頭十五	利ノ山 春日岳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5 - 10	引退
敢闘賞	10 - 5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大桜 秋の里	前頭十六	皆生海 汽須	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8 - 7	
																		前頭十七	若银山 江森	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8 - 7	

ところで、「宮前国技館」は閉館したものの、使用していた土俵は、大阪府堺市浜寺元町「浜寺紙相撲場」に移設し、本場所の土俵として使用され、熱戦を繰り広げている（写真6）。



写真6 浜寺紙相撲場にて 第5代横綱「龍馬伝」(左)と第2代横綱「旭日利」(右)

4 力士の形態の分類と変化

現在の力士の形態は、大きく四つに分類できる。『トントン紙相撲』から生まれた力士は、「基本型」（初土俵の時期により「基本Ⅰ型」「基本Ⅱ型」「基本Ⅲ型」とさらに分類）。それらを真似た力士が「模倣型」。先に挙げた二つの形態に近く、かつオリジナル性を加えた力士が「類似型」。日本紙相撲協会の力士に倣った斬新な形態の力士が「進化型」である。

「第19回紙相撲旭川場所」から「第22回紙相撲大阪場所」まで、4場所も続けて平幕力士が優勝を果たした時期がある。そういった形態の変化が、下克上を生んだと分析できる。横綱が絶対王者だった昭和の時代から、平成の眠りから覚め、形態の変化による群雄割拠の令和の時代へ突入している。

VI 記録

1 受賞力士

幕内優勝は、横綱「旭日利」の17回が最多。次に横綱「龍馬伝」の5回、元横綱「岩石」の3回と続く。連続優勝は、「旭日利」の4場所（第12回～第15回）が最高。続いて「岩石」の3場所（第16回～第18回）、「旭日利」の3場所（第5回～第7回、第23回～第25回）となる。

三賞（殊勲賞、敢闘賞、技能賞）の最多受賞は、「杉山」、「谷津（のち勘乃華）」、「若鶴」、「金白」「飛驒嵐」「荒波」の各4回。一つの賞を最も多く受賞したのは、「谷津」（技能賞）、「若鶴」（殊勲賞）、「飛驒嵐」（技能賞）で各3回。ちなみに「若鶴」は、3場所連続の受賞である。

十両優勝は、「白鶴（のち若垂竜）」、「黄桜」「吉野口」「えりも岬」の2回が最多となった（「黄桜」を除く3力士はいずれも連続優勝）。

なお、三賞については、令和に本場所を再開してから、原則として10勝以上を挙げた平幕力士から選出することに規定を改めた。これは、引退と廃業の区別に関連している。連盟では、「三役経験があること」「受賞経験があること」「通算100勝以上あげていること」、この条件に一つでも該当すれば、引退として扱おうと決めている⁴⁾。できるだけ多くの力士に引退の花道を飾ってあげたいという配慮から、三賞を平幕力士に限定したのである（表2）。

表2 受賞力士一覧（幕内のみ）

回	千秋楽年月	優勝			殊勲賞			敢闘賞			技能賞		
1	1977(昭和52)年3月	前頭4	強気①	5勝0敗	張出小結	金白①	5勝0敗	前頭2	北風①	3勝2敗	関脇	桜山①	4勝1敗
2	1977(昭和52)年3月	横綱	旭日利①	5勝0敗	前頭6	展望①	5勝0敗	前頭1	突撃①	4勝1敗	関脇	桜山②	4勝1敗
3	1977(昭和52)年3月	横綱	旭日利②	10勝1敗	前頭9	谷津①	9勝2敗	前頭4	岩石①	8勝3敗	前頭9	谷津①	9勝2敗
4	1977(昭和52)年3月	前頭1	杉山①	10勝1敗	前頭1	杉山①	10勝1敗	前頭1	杉山①	10勝1敗	小結	谷津②	9勝2敗
5	1977(昭和52)年3月	横綱	旭日利③	9勝2敗	前頭2	怪力①	8勝3敗	前頭3	蜜蜂①	7勝4敗	前頭4	汽車①	7勝4敗
6	1977(昭和52)年4月	横綱	旭日利④	9勝2敗	小結	怪力②	7勝4敗	張出関脇	金白①	6勝5敗	関脇	谷津③	8勝3敗
7	1977(昭和52)年11月	横綱	旭日利⑤	10勝1敗	関脇	岩石①	8勝3敗	張出関脇	金白②	6勝5敗		該当なし	
8	1977(昭和52)年12月	横綱	矢吹①	9勝2敗	前頭1	杉山②	7勝4敗	前頭5	雄の山②	8勝3敗	前頭6	土佐①	8勝3敗
9	1978(昭和53)年1月	横綱	旭日利⑥	11勝0敗		該当なし		前頭10	犬張子①	7勝4敗	関脇	杉山①	7勝4敗
10	1978(昭和53)年1月	大関	谷津①	9勝2敗	前頭8	若鶴①	9勝2敗	小結	知床錦①	7勝4敗	前頭5	三春駒①	7勝4敗
11	1978(昭和53)年1月	横綱	矢吹②	9勝2敗	前頭1	若鶴②	8勝3敗	前頭6	七尾岳①	7勝4敗	前頭11	吉田①	8勝3敗
12	1978(昭和53)年6月	横綱	旭日利⑦	10勝1敗	小結	若鶴③	6勝5敗	前頭12	若三双①	10勝1敗	前頭12	若三双①	10勝1敗
13	1978(昭和53)年12月	横綱	旭日利⑧	10勝1敗	前頭1	吉田①	6勝5敗	前頭10	琴乃山①	8勝3敗	前頭9	荒波①	8勝3敗
14	1980(昭和55)年3月	横綱	旭日利⑨	10勝1敗	前頭4	荒波①	10勝1敗	関脇	若鶴①	7勝4敗	前頭4	荒波②	10勝1敗
15	1980(昭和55)年12月	横綱	旭日利⑩	10勝1敗	前頭4	小里山①	8勝3敗	前頭2	若垂竜①	7勝4敗	前頭13	犬張子①	8勝3敗
16	1981(昭和56)年12月	大関	岩石①	9勝2敗	張出関脇	琴乃山①	6勝5敗	前頭3	川越山①	8勝3敗	小結	龍ノ花①	6勝5敗
17	1982(昭和57)年2月	大関	岩石②	10勝1敗	前頭1	若三双①	9勝2敗	前頭11	棟ノ居①	8勝3敗			
18	1984(昭和59)年2月	横綱	岩石③	10勝1敗	関脇	琴乃山②	8勝3敗	前頭4	四葉山①	7勝4敗	前頭13	利ノ山①	8勝3敗
19	1987(昭和62)年11月	前頭9	忍流①	9勝2敗	前頭3	重乃山①	9勝2敗	前頭13	旭登①	8勝3敗	前頭2	吹の綱①	9勝2敗
20	1988(昭和63)年2月	前頭13	津和ノ川①	13勝2敗	小結	若垂竜①	8勝3敗	前頭13	氷見登①	8勝3敗	前頭9	忍流①	9勝2敗
21	2020(令和2)年5月	前頭12	水野①	14勝1敗	小結	忍流①	9勝6敗		該当なし		前頭13	飛驒嵐①	11勝4敗
22	2020(令和2)年5月	前頭1	水野②	12勝3敗	前頭13	欽乃山①	13勝2敗	前頭11	八戒①	11勝4敗	前頭5	飛驒嵐②	11勝4敗
23	2020(令和2)年5月	横綱	旭日利⑪	15勝0敗	前頭4	欽乃山②	10勝5敗	前頭7	青竜川①	11勝4敗	前頭6	えりも岬①	11勝4敗
24	2020(令和2)年5月	横綱	旭日利⑫	13勝2敗	前頭11	江ノ富士①	10勝5敗	前頭11	札虎竜①	10勝5敗	前頭8	札虎竜①	11勝4敗
25	2020(令和2)年6月	横綱	旭日利⑬	14勝1敗	前頭3	青竜川①	11勝4敗	前頭15	春水①	12勝3敗	前頭18	江ノ富士①	11勝4敗
26	2020(令和2)年8月	大関	龍馬伝③	12勝3敗	前頭4	春水①	11勝4敗	前頭10	男山①	11勝4敗	前頭1	札虎竜②	11勝4敗
27	2020(令和2)年10月	横綱	旭日利⑭	12勝3敗		該当なし		前頭13	切人山①	11勝4敗	前頭9	津和ノ川①	11勝4敗
28	2020(令和2)年10月	関脇	えりも岬①	12勝3敗	前頭15	雪一人①	11勝4敗	前頭15	雪一人①	11勝4敗			
29	2020(令和2)年11月	大関	龍馬伝④	13勝2敗	前頭15	栃登①	10勝5敗	前頭16	大桜①	10勝5敗	前頭4	欽乃山①	10勝5敗
30	2020(令和2)年12月	前頭12	旭大雪①	13勝2敗	前頭16	大桜①	10勝5敗	前頭16	伯耆大山①	10勝5敗	前頭13	雪一人①	11勝4敗
31	2021(令和3)年1月	横綱	旭日利⑮	13勝2敗	前頭16	清ノ里①	11勝4敗	前頭16	清ノ里①	11勝4敗	前頭6	大桜①	12勝3敗
32	2021(令和3)年5月	横綱	旭日利⑯	14勝1敗	前頭11	飛驒嵐①	13勝2敗	前頭10	清ノ里②	12勝3敗	前頭6	鯉太郎①	10勝5敗
33	2021(令和3)年8月	大関	えりも岬②	12勝3敗	前頭8	鹿島灘①	11勝4敗	前頭16	鳥羽の海①	11勝4敗	前頭9	栃登①	11勝4敗
34	2021(令和3)年9月	小結	江ノ富士①	12勝3敗	前頭4	大桜①	12勝3敗	前頭7	伯耆大山②	11勝4敗	前頭9	旭大雪①	12勝3敗
35	2021(令和3)年10月	横綱	旭日利⑰	12勝3敗	前頭3	江ノ富士②	10勝5敗	前頭8	津和ノ川①	11勝4敗	前頭13	吉野口①	10勝5敗
36	2022(令和4)年1月	横綱	龍馬伝⑤	14勝1敗	前頭4	清ノ里①	11勝4敗	前頭7	切人山②	11勝4敗	前頭10	飛驒嵐③	11勝4敗
					前頭2	旭大雪①	12勝3敗	前頭6	重乃山①	10勝5敗	前頭15	由良の門①	11勝4敗
						該当なし		前頭6	荒波①	10勝5敗	前頭5	鹿島灘①	11勝4敗

2 歴代横綱

今日まで5名の横綱が誕生したが、特筆すべきは第2代横綱「旭日利」の活躍であろう。優勝17回のみならず、通算347勝、勝率.785、20連勝（2度）は、いずれも歴代1位の大記録。歴代2位となる優勝5回の第5代横綱「龍馬伝」の勝率は、「旭日利」に次ぐ.774。まもなく「旭龍時代」が訪れるかもしれない（表3）。

表3 歴代横綱一覧

代	四股名	部屋名	在位	優勝	勝利	敗北	勝率
1	矢吹	—	13場所（第1回～第13回）	2回	84	29	0.743
2	◎旭日利	旭	36場所（第1回～現在）	17回	347	95	0.785
3	勘乃華←谷津	矢吹	7場所（第11回～第17回）	1回	111	54	0.673
4	岩石	鋼鉄	11場所（第18回～第28回）	3回	209	113	0.649
5	◎龍馬伝	水乃神	5場所（第32回～現在）	5回	206	60	0.774

※勝利・敗北・勝率は、力士としての通算成績（第36回紙相撲大阪場所まで）。◎は現役。

3 歴代大関

13名の大関のうち、横綱に昇進したのは「谷津（のち勘乃華）」「岩石」「龍馬伝」の3力士のみ。関脇以下に陥落したのは7力士であり、その後に大関へ復帰した力士は皆無である。

唯一、大関のまま引退した「桜山」は、歴代最長となる24場所も大関の地位を守った。残念ながら優勝には届かなかったが、準優勝は実に5回。記憶に残る名大関であった（表4）。

表4 歴代大関一覧

代	四股名	部屋名	在位	結果	勝利	敗北	勝率
1	花田	—	11場所（第1回～第11回）	陥落	48	62	0.436
2	小里山(初代)	—	2場所（第1回～第2回）	陥落	26	40	0.394
3	桜山	秋の里	24場所（第3回～第26回）	引退	166	126	0.568
4	金白	汽須	3場所（第3回～第5回）	陥落	143	179	0.444
5	谷津	矢吹	4場所（第7回～第10回）	昇進	—	—	—
6	岩石	鋼鉄	10場所（第8回～第17回）	昇進	—	—	—
7	琴乃山	鋼鉄	4場所（第18回～第21回）	陥落	128	136	0.485
8	若垂竜	一迫	3場所（第20回～第22回）	陥落	161	167	0.491
9	◎川越山	吉ヶ岳	10場所（第20回～第29回）	陥落	185	169	0.523
10	◎龍馬伝	水乃神	7場所（第25回～第31回）	昇進	—	—	—
11	◎春水	浦川	10場所（第27回～現在）		162	78	0.675
12	◎えりも岬	浦川	8場所（第29回～現在）		166	89	0.651
13	◎欽乃山	山家	4場所（第29回～第32回）	陥落	163	103	0.613

※勝利・敗北・勝率は、力士としての通算成績（第36回紙相撲大阪場所まで）。◎は現役。

Ⅶ おわりに

高校二年生のとき（1982年）、倫理社会の授業中に担当の先生から「紙相撲の話をしなさい」と急に指名された。先生は、筆者が昼休みに仲間と興じていた紙相撲に、なぜか興味を持ったようであった。私の「講義」はクラスメイトの喝采を浴び、クラスに紙相撲ブームが巻き起こった。

大学に進んでからは、野球部を引退した四年生の冬（1987～1988年）に、合宿所内で2回ほど本場所を開いた。授業も練習も就職活動もなくなった同級生は、紙相撲という新たな交流の

場の誕生を喜んでいた。しかし、それから32年間は、高校および大学野球の指導が忙しく、本場所を開催することはできなかった。

現在、本連盟に所属する力士のほとんどが、高校時代の運動部員を中心としたクラスメイトや、大学時代に合宿所で四年間をともにした野球部のチームメイトが作った（育てた）力士たちである。彼らが紙相撲に夢中になったことは、競技スポーツと卓上スポーツに共通する心理的要素を探る手がかりとなるであろう。

スポーツ選手が夢中になれる紙相撲が、新型コロナウイルス感染症の拡大によりスポーツ活動が制限されている現在において、スポーツ選手の心の安定に一役買う可能性があるかと推察される。

そう考えると、本学のスポーツコースの学生に対して、紙相撲を紹介することは、スポーツから得られる精神的価値について考えるヒントになるかもしれない。また、地域の子供たちに紙相撲を教えることは、地域貢献または文化伝承となるかもしれない。

今後も、徳川式紙相撲の実践と普及に努め、卓上スポーツと社会との関係性を確かめていきたい。

参考文献

- 1) 日本紙相撲協会 (2019) 『トントン紙相撲』 誠文堂新光社。
- 2) 小川茂男 (1975) 『子供の科学別冊おたのしみ号「トントン紙相撲」』 誠文堂新光社。
- 3) 日本紙相撲協会・徳川式・公式ホームページ <https://kyomen.wixsite.com/kamizumou>
- 4) 朝西紙相撲連盟・公式ホームページ <asanishi.sensyuuraku.com/kamizumou.html>